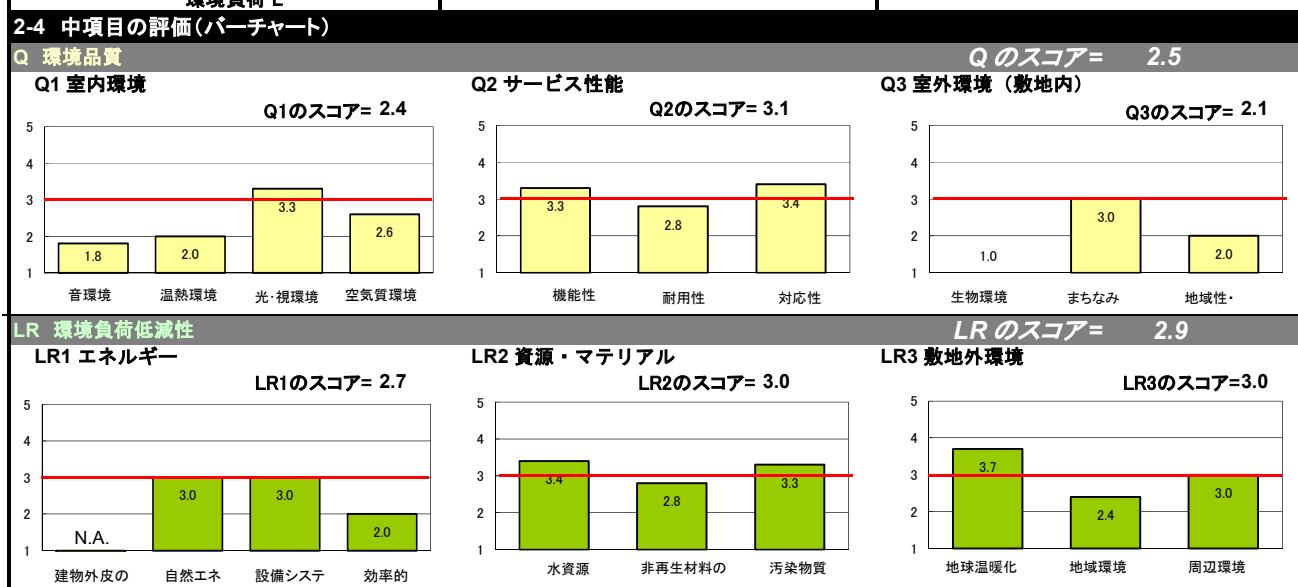
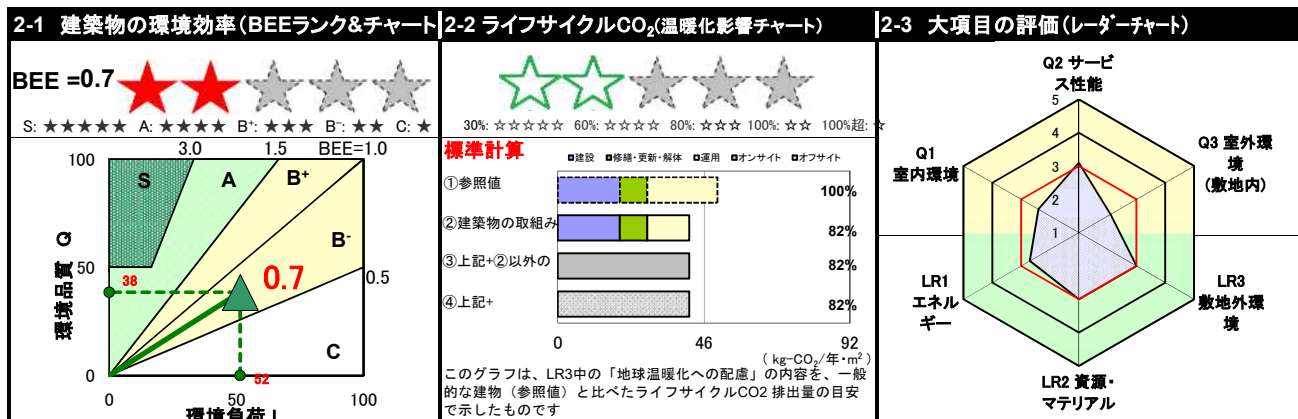


CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_速報版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.5)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	兎野町 (株)アライブテック様 工場	階数	地上2F
建設地	静岡県浜松市中央区兎野町字道西	構造	S造
用途地域	指定なし、指定なし(法第22条区域)	平均居住人員	25 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年1月 予定	評価の実施日	2025年4月14日
敷地面積	4,652 m ²	作成者	株式会社飯田組一級建築士事
建築面積	2,112 m ²	確認日	2025年4月14日
延床面積	3,009 m ²	確認者	株式会社飯田組一級建築士事



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
・これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果です。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
・事務室に窓を多く設けている。 ・各室毎調整可能である。マルチヒートポンプ方式 ・仕上材等の建材は、F☆☆☆☆を使用している。	・階高は十分あり、ラーメン構造で空間は自由である。 ・事務室の天井高は2.9mであり、OAフロアを採用している。 ・作業スペースとリフレッシュスペースの割合を考慮し	・景観条例に準じている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・BELm=0.6である。 ・LED照明や高効率空調機を採用している。	・節水型便器を採用している。 ・グラスウールを採用し、発泡剤を用いた断熱材を使用していない。	・ライフサイクルCO ₂ 排出率は82%である。 ・大型車の導入路を配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版

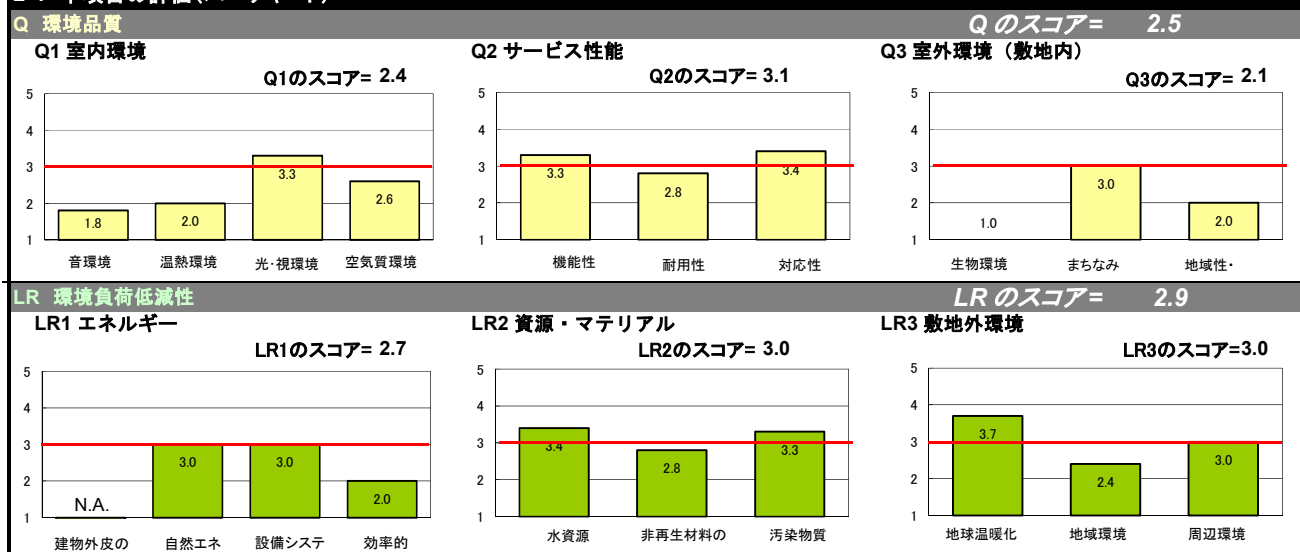
評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_速報版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.5)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	兎野町 (株)アライブテック様 工場	階数	地上2F
建設地	静岡県浜松市中央区兎野町字道西	構造	S造
用途地域	指定なし、指定なし(法第22条区域)	平均居住人員	25 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年1月 予定	評価の実施日	2025年4月14日
敷地面積	4,652 m ²	作成者	株式会社飯田組 一級建築士事
建築面積	2,112 m ²	確認日	2025年4月14日
延床面積	3,009 m ²	確認者	株式会社飯田組 一級建築士事



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合		その他
・これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果です。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・事務室に窓を多く設けている。 ・各室毎調整可能である。マルチヒートポンプ方式 ・仕上材等の建材は、F☆☆☆☆を使用している。	・階高は十分あり、ラーメン構造で空間は自由である。 ・事務室の天井高は2.9mであり、OAフロアを採用している。 ・作業スペースとリフレッシュスペースの割合を考慮し	・景観条例に準じている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・BELm=0.6である。 ・LED照明や高効率空調機を採用している。	・節水型便器を採用している。 ・グラスウールを採用し、発泡剤を用いた断熱材を使用していない。	・ライフサイクルCO ₂ 排出率は82%である。 ・大型車の導入路を配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1. 建物概要

建物名称	黒野町 輪アライブテック様 工場	BEE	0.7	BEEランク	B-	★★
------	------------------	-----	-----	--------	----	----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.2 /5	    	ふつう 
“災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	2.6 /5	    	がんばろう 
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	2.4 /5	    	がんばろう 
“緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	2.0 /5	    	がんばろう 
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4 点以上	
		ふつう 3 点以上	
		がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		内訳対応項目	
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)		得点	3.2
 ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ③人の在室する部屋のサッシはブラインドを設置する。	Q-1 2 2.1 2.1.2 ①	外皮性能	② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ⑤ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ⑥ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ⑦ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ⑧ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ⑨ 主要設備機器の更新必要間隔
	Q-1 3 3.1 3.1.3 ②	③	
	Q-2 2 2.2 2.2.1 ④	④	
	2.2.2 ④	④	
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤敷地周囲に緑地を設けている。	Q-3 1 ⑤	生物環境の保全と創出	⑥ 敷地内温熱環境の向上
	3 3.2 ⑥	⑥	
	LR-1 1 ⑦	建物外皮の熱負荷抑制	
	2 ⑧	自然エネルギー利用	
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦屋根は二重葺断熱折板を採用している。	3 ⑨	設備システムの高効率化	⑩ モニタリング ⑪ 運用管理体制
	4 4.1 ⑩	⑩	
	4.2 ⑪	⑪	
	LR-2 1 1.1 ⑪	⑪	
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水型便器採用。 ⑬断熱材はグラスウールを採用し、発泡剤を用いた断熱材を使用していない。	1.2 1.2.1 ⑪	雨水利用システム導入の有無	⑫ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑬ 材料使用量の削減 ⑭ 既存建築躯体等の継続使用 ⑮ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑯ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑰ 持続可能な森林から産出された木材 ⑱ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑲ 有害物質を含まない材料の使用 ⑳ 消火剤 ㉑ 断熱材 ㉒ 冷媒
	2 2.1 ⑫	⑫	
	2.2 ⑬	⑬	
	2.3 ⑭	⑭	
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭ライフサイクルCO2排出率は82%である。	2.4 ⑮	⑮	
	2.5 ⑮	⑮	
	2.6 ⑮	⑮	
	3 3.1 ⑮	⑮	
■断熱材はグラスウールを採用し、発泡剤を用いた断熱材を使用していない。	3.2 3.2.1 ⑮	⑮	
	3.2.2 ⑮	⑮	
	3.2.3 ⑮	⑮	
	LR-3 1 ⑭	⑭	
■断熱材はグラスウールを採用し、発泡剤を用いた断熱材を使用していない。	2 2.2 ⑮	⑮	
“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)		得点	2.6
 ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯地域係数Z=1.2にて構造計算している。	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯	耐震性	⑰ 免震・制振性能 ⑱ 空調・換気設備 ⑲ 給排水・衛生設備 ⑳ 電気設備 ㉑ 機械・配管支持方法 ㉒ 通信・情報設備
	2.4 2.4.1 ⑰	⑰	
	2.4.2 ⑱	⑱	
	2.4.3 ⑲	⑲	
■サービス性能対策 (⑯機能性・使いやすさ/⑰心理性・快適性/⑱空間のゆとり) ⑱作業スペースとリフレッシュスペースの割合を考慮した間取りを採用した。	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑯⑰	ユニバーサルデザイン計画	⑱ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ
	3 3.1 3.1.1 ⑱	⑱	
	3.1.2 ⑲	⑲	
	Q-3 3 3.1 ⑲	⑲	
■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮) 特になし			⑲ 地域性への配慮、快適性の向上
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)		得点	2.0
 ■室外環境(敷地内)対策 (⑯生物環境の保全と創出/⑰まちなみ・景観への配慮/⑮敷地内温熱環境の向上) ⑰景観条例に準じている。	Q-3 1 ⑮	生物環境の保全と創出	⑰ まちなみ・景観への配慮 ⑱ 敷地内温熱環境の向上
	2 ⑰	⑰	
	3 3.2 ⑱	⑱	
■敷地外環境対策 (⑱持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) 特になし	LR-2 2 2.5 ⑱	持続可能な森林から産出された木材	⑮ 温熱環境悪化の改善
	LR-3 2 2.2 ⑮	⑮	